

# 第122回日本数学会九州支部例会のお知らせ

2010年1月22日

日本数学会九州支部会員殿

支部評議員 栄伸一郎  
水町徹  
前田定廣

先日前お知らせしました九州支部春の例会を次のように開きます。皆様、ふるってご参加下さい。

日時：2010年2月13日(土)9時40分から

場所：九州大学西新プラザ大会議室

URL：<http://www.kyushu-u.ac.jp/university/institution-use/nishijin/>

交通：福岡市営地下鉄空港線「西新」駅下車、7番出口より徒歩10分。

## 第122回日本数学会九州支部例会プログラム

日時：2010年2月13日（土）

場所：九州大学西新プラザ大会議室（福岡市早良区西新2-16-23）

### 午前の部 一般講演 9:40–12:15

(\* はプロジェクター、#はOHP使用の講演を表します。)

- (1) 高江洲 俊光 (九州大学・数理)# (15分)  
Dirac 方程式に従う粒子と Klein-Gordon 方程式に従う粒子が生成・消滅しながら相互作用する系の基底状態について
- (2) 高江洲 俊光 (九州大学・数理)# (10分)  
量子場と結合した相対論的シュレディンガー作用素のスケーリング極限について
- (3) 日高 建 (九州大学・数理)# (15分)  
On the existence of ground states for Pauli-Fierz model with a variable mass
- (4) 栗林 壮太郎 (九州大学・数理)\* (10分)  
運動量作用素の自己共役拡大
- (5) 廣島 文生 (九州大学・数理)\* (15分)  
Relativistic Feynmann-Kac formula and its applications
- (6) 縄田 紀夫 (九州大学・数理)\* (15分)  
Fundamental group of simple  $C^*$ -algebras with unique trace
- (7) 関坂 歩幹 (九州大学・数理)\* (15分)  
1次元シュレディンガー作用素の固有値問題に対する力学系的アプローチ
- (8) 石本 登志男 (九州大学・数理)\* (15分)  
Spiral waves in bistable reaction-diffusion systems
- (9) 石村直之 (一橋大学・経済)\* (15分)  
リスク選好に関する非線形偏微分方程式

### 午後の部 一般講演 13:15–16:15

- (10) Kissani Perera (九州大学・数理)\* (15分)  
Laplacian Energy of Directed Graphs
- (11) 伊藤 隆浩 (九州大学・数理)\* (15分)  
群上の抽象衝突系

- (12) 本田 淳史 (九州大学・数理)\* (10分)  
双曲空間の間の等長はめ込みと双曲空間内の測地線のなす空間について
- (13) 鳩野 哲平 (大分大学・工), 末竹 千博 (大分大学・工)\* (15分)  
対称横断デザイン  $STD_8[24; 3]$  について
- (14) 繁木 伸孝 (九州大学・数理)\* (10分)  
Markoff 2 次無理数および対応する  $j$  関数の積分値について
- (15) 本多雄太郎 (九州大学・数理)\* (15分)  
あるモジュラー形式のフーリエ係数について
- (16) 斎藤恒和 (九州大学・数理)\* (15分)  
ECDLP への Generalized Weil Descent 攻撃の評価
- (17) 横山 俊一 (九州大学・数理)\* (15分)  
Numerical study of Serre's modularity conjecture over imaginary quadratic fields
- (18) 田坂 浩二 (九州大学・数理)# (10分)  
等号付き多重ゼータ値のある和で得られる特殊値について
- (19) 吉田 学 (九州大学・数理)# (15分)  
Krasner 補題の精密化
- (20) 仁田脇 貴浩 (九州大学・数理)# (15分)  
局所体上の完全分岐拡大による Eisenstein 多項式の分類

### 特別講演 16:30–17:30

- (21) 中屋敷 厚 (九州大学・数理) 加法定理の周辺

特別講演アブストラクト: 楕円関数の加法定理は 19 世紀に発見されたものであるが今なお興味は尽きない。特に非線形微分方程式や物理模型の厳密解が分かる場合の多くに顔を出す。この観点からは楕円関数の拡張およびその満たす関係式もまた同様に興味深い。20 世紀にソリトン方程式に関係してこの辺りの理解は大きく深まった。この講演では具体的な関係式がどのくらい分かるかという観点から、楕円関数の加法定理の拡張について論じる。

### 懇親会 17:45~18:45

この研究集会は、九州大学グローバル COE プログラム「マス・フォア・インダストリ」教育研究拠点（拠点リーダー：若山正人）より援助を受けています。